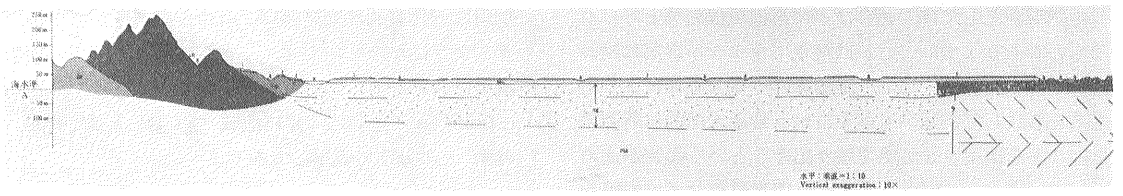

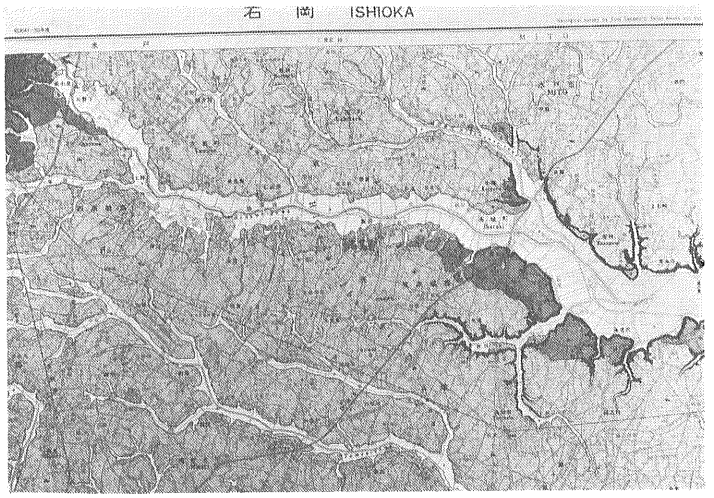

「石岡」地域は茨城県の中部にある．水戸の南・霞ヶ浦の北という位置で地域の大半は広大な常総台地の占めるところとなっている．　したがって　「石岡」の地質図を開いての第一印象は「まっ黄色な図幅」ということ．　台地の表層を構成する更新世後期の地層が　ベタ一色に図幅地域の大半を塗りつぶしている――それより上位の関東ローム層などは　地質図には省略してあるので――からである．

こうした単調な図幅なら　調査も簡単・報告も手軽　と思われるかも知れないが　それはそれ　やはりそれなりの苦心はあるものである．

例えば　東西20数km・南北10数kmの地域一面に広がっている台地構成層の場合　岩相・層厚・基底面の性状などの側方変化についてどこから説明を始め　どんな順序で述べていけば全体的な傾向をより分りやすく記載することができるか　なかなか難しい．　この報告では　厚さ10～15mの見和層上部層について　その上半と下半とで岩相変化の傾向が異なることを指摘しているが　海進・海退に伴う環境変化とからんで　興味がある．

「石岡」図幅の一つの特色は　地質調査所でかつて行った2本の層序試錐を核とし　既存の多数の深井戸資料を使って　東茨城台地の地下地質を解明していることである．　地質学的に推定された台地の東西における地下構造の差は　水理地質の面でも地下水分布の顕著な不連続として現われている．　石岡付近で酒・醤油など醸造業が昔から盛んであったのも　このような地質学的背景があったのかと理解される．　この地域の地域の地下構造については　更に浅層反射法や電気探査による検証が行われているが　その結果が期待される．

「石岡」地域には　台地の他　北西隅にわずかに山地がかかっている．　ここは二畳紀　又は中生代前期と漠然とした時代でしか述べていない古期堆積岩類　それを貫く白亜紀末ないし古第三紀初頭の花崗岩からなっている．　見和層より古い第四系としては　山麓部に友部層　台地地域に石崎層・笠神層（新称）が見られる．　見和層は下部層（河谷を埋積した泥質層）・中部層（扇状地性の礫層）・上部層（台地を構成する浅海成層）に区分される．　それより新らしい地層は　河成の段丘礫層・茨城粘土層・風成のローム層及び沖積層である．

5万分の1地質図幅の新刊

石　岡
ISHIOKA

5万分の1地質図幅
地域地質研究報告

著　者　坂本　亨・相原　輝雄・野間　泰二
発　行　工業技術院　地質調査所
取扱先　東京地学協会　(03)261-0809　262-1401

地質ニュース　第332号　4月号
定価￥540　〒実費
昭和57年4月1日　発行
編集　工業技術院　地質調査所
発行人　林　久雄
発行所　株式会社　実業公報社
印刷　東京都千代田区九段南4の2の12
Tel. (03) 265-0951（代表）
振替口座　東京32466
総発売元　株式会社　実業公報社
出版事業部

© 1982 Geological Survey of Japan